

令和5年度(2023年)公益財団法人 音楽文化創造 事業報告

当財団は、平成6年(1994年)に制定された「音楽文化の振興のための学習環境の整備に関する法律」(略称:音楽振興法)の趣旨に基づき、音楽に関する文化活動を幅広く振興するとともに、生涯学習の一環としての音楽学習の活性化を図り、もって我が国の音楽文化の発展と音楽を通じた国際相互理解の促進に寄与することを目的として活動しています。令和5年度はこの目的に沿って事業を展開しました。

【公益目的事業】

1. 音楽に関する国内外の協議会、講演会等の開催及びその開催のための協力

「国際音楽の日」の普及のための事業、その他音楽を通じた国内外の文化交流促進事業の実施

音楽振興法推進の精神に基づき、全国各地域の音楽文化振興と生涯音楽学習の環境整備、及び「国際音楽の日」の普及と音楽を通じた国内外の文化交流促進を目的に「FORUM in 国際音楽の日 2023 奈良 音楽によるコミュニケーションは無限大∞古都奈良と姉妹都市トledo市との音楽交流」を開催致しました。

- <日程> 10月1日(日)
- <会場> 奈良公園バスターミナル レクチャーホール
- <主催> 全国生涯学習音楽指導員協議会
- <主管> 「FORUM in 国際音楽の日 2023 奈良」実行委員会
- <協賛> 公益財団法人音楽文化創造
- <後援> 文化庁
奈良県、奈良県教育委員会
奈良市、奈良市教育委員会
一般財団法人日本青年館
一般社団法人全国楽器協会
ヤマハ株式会社
株式会社河合楽器製作所
鈴木楽器販売株式会社
株式会社ヤマハミュージックジャパン
コウキ商事株式会社

<プログラム>

1部 コミュニケーションによる音楽の可能性を大切に

【奈良支部の活動事例紹介】

- ・10年継続している「子どもスペイン講座」「絵本講座」の魅力
- ・「三枚のお札」(スペイン語)をトledoの小学校児童に送ったら!! 現地でのレポート取材!
- ・スペイン語版「三枚のお札」オリジナル紙芝居と三曲合奏の演奏を動画上映!
- ・ギターの生演奏でスペイン音楽にふれよう!

2部 コミュニケーションで広がる音楽の輪

【わらべうたや伝統的な芸能を通して、世代間交流や郷土芸能の活性化をめざす活動紹介】

- ・音声館 大紙芝居「二月堂良弁杉」上演

・会場の皆さんとスペイン語で「ぶんぶんぶん」を歌いましょう！
＜参加者＞ 218名（協議会:11支部 32名、招待25名、一般:161名）

2.「国際音楽の日」の普及のための事業、その他音楽を通じた国内外の文化交流事業の実施

音楽振興法第7条に定められた「国際音楽の日」を広く普及することを目的としたコンサートやイベントなどを実施する音楽団体に対し助成を行いました。

＜申請団体数＞ 39団体
内訳:生涯学習音楽指導員 6 団体、地域音楽コーディネーター 4 団体、一般 29団体
＜助成決定団体数＞ 12団体
内訳: 一般 12団体

＜国際音楽の日記念事業 選考委員会＞ 2023年3月27日実施 (敬称略)
委員長: 久保田慶一 東京経済大学客員教授、放送大学非常勤講師
公益財団法人音楽文化創造 理事
委員: 河原啓子 国立音楽大学、青山学院大学、立教大学ほか 兼任講師
アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家(日本文藝家協会正会員)
大島路子 桐朋学園大学音楽学部 非常勤講師
揚石明男 公益財団法人音楽文化創造 常務理事 事務局長

＜実施報告＞

●9月17日(日) もろたるコンサート

【主催】NPO法人子どもステーション横浜(神奈川県)

【会場】師岡(もろおか)トレッサ学童クラブ

【主催者報告】

地域の親子、子供達に、質の良い生演奏を聴いてもらう機会として「もろたるコンサート Vol.2」を開催した。会場だけでなく自宅などでも視聴を楽しめるようにオンラインでライブ配信を行った。演奏者には、今後の活動が期待されている若い5人を起用し、来場者参加型のプログラム構成により大いに盛り上がったコンサートとなった。

●9月18日(祝)、10月9日(祝) ペットボトル三味線を作って弾いてみよう

【主催】三味線三昧+ (京都府)

【会場】岡崎いきいき市民活動センター

【主催者報告】

ペットボトル三味線を作って弾いてみる体験型ワークショップを実施した。三味線の紹介、ペットボトル三味線の組み立てと簡単な演奏の練習、三味線の演奏の鑑賞というメニューを行った。参加してくれた子供たちは、いずれも三味線に触れるのが初めてで、まずは「三味線がどこから伝わったのか？」などの歴史からスタートし、ペットボトル三味線の組み立て、弦張り作業に挑戦、ペットボトル三味線完成後は、基本的な三味線の音の出し方(弾き方)をいくつかのリズムパターンを使って練習した。最後に本物の三味線演奏の鑑賞もしてもらった。この日はNHKのラジオ取材も入り、後日にラジオ番組で紹介された。

●9月22日(金) 10月15日(日) スタンダードジャズ、最高の音楽と文化を！

【主催】NPOサンライト(神奈川県)

【会場】菊名地区センター、篠原地区センター

【主催者報告】

現在の日本において、あまり聞かれなくなった本当の音楽芸術に触れる機会として開催。現代音楽の歴史、特にニューヨーク中心のジャズの歴史、ミュージカルの歴史、ハリウッド映画音楽の歴史等を説明し、代表曲の一部をボーカル、ピアノ、サックスで演奏した。また、CD等での鑑賞も行い、感想などを語り合い充実した時間となった。参加者は、高齢者が多かったが、小学生も含まれていた。

●9月24(日) 自分の音を楽しもう！

【主催】音あそび(群馬県)

【会場】桐生市市民文化会館リハーサル室

【主催者報告】

「クラシック音楽は自分には難しそう」というイメージを持っている方々に、クラシック音楽をより身近に感じてもらえるよう、来場者がそれぞれにユニークな楽しみ方の出来る新しい参加型の企画を検討。どの年齢の方でも簡単に取り組める体験型ワークショップや楽器体験会と合わせたクラシックコンサートを実施した。去年は、すぐに定員に達してしまい申し込みを早めに締め切ったことから、今年は午前と午後の2回の開催とした。また、小さいお子さんがいてコンサートに足を運ぶことのできない家族にも気軽に参加してもらうように未就学児の参加も可能とした。

●10月14日(土) 15日(日) 岡崎ワールドミュージックフェスタ2023

【主催】オカフェス実行委員会(京都府)

【会場】ロームスクエア(京都市左京区岡崎最勝寺町)

【主催者報告】

アジアに広がる弦楽器を中心とした、歌あり踊りありのワールドミュージック音楽祭を実施。アイヌ音楽、三味線、バリ舞踊、朝鮮歌舞、タイ音楽、和太鼓、津軽半島の芸能・荒馬踊り、会場近隣地域の中学校吹奏楽部も参加。また、音楽祭開催までの間、近隣住民に向けて、演奏者やスタッフが楽しみ方を伝える場「ワールドミュージックを聴く会」を毎月1回実施。音楽祭の開催により、音楽愛好家に限らず多くの府民に普段馴染みの少ない楽器や各地の音楽を届け、ワークショップや聴く会を通じて、子どもや演奏者と愛好家の交流や発表の場とした。運営面では、大学生を中心にボランティアとして関わりながら、地域社会の中での企画のあり方を学んでもらい、音楽家のみならず近隣施設や市民の手で、地域を超えた大きな交流を生み出せることを体験してもらった。

●10月20日(金) 11月7日(火) 0歳児から聴かせたいクラシックコンサート

【主催】むじくり企画(京都府)

【会場】長岡京市立中央公民館 宮津市由良古民家ヴァリエント

【主催者報告】

10月20日は、中規模の多目的ホールで演奏会を実施。出演はクラリネット、バイオリン、ピアノ、歌(ソプラノ)で、クラシック曲のソロとアンサンブルを演奏。対象は0歳児からお年寄りまでの幅広い客層を呼び込んだ。プログラムの中に、ちびっこステージを組み込み、0歳児からステージ上で、伴奏に合わせて歌を歌った。大型絵本読み聞かせも行い、音楽を取り入れながら読み聞かせを行った。Aromaハンドマッサージを演奏中に6名、希

望者にだけ無料で行った。11月7日は同じプログラムではあるが、場所を変えて、人口の少ない京都府津市でも開催した。こちらは、聴衆は少なかったが、少ないなりに密度の濃い非常に楽しいコンサートとして終えることができた。

●10月31日(火)、11月21日(火)、12月12日(火)親子で楽しむ♪子ども食堂とアート体験

【主催】認定NPO法人あっちこっち(神奈川県)

【会場】横浜市寿町健康福祉交流センター

【主催者報告】

食事と芸術の力を組み合わせた子ども向けのイベントは全国的にも希少であり、またドヤ街という特異な環境にて行う当事業では、参加者や会場スタッフおよび地域団体の声に耳を傾け、常に試行錯誤しながら継続している。いずれの公演もプロのアーティストが間近で魅せるパフォーマンスからは、大人子どもを問わず特別な感動を与え、また彼らとともに楽器を弾き、歌ったりという体験がその特別感をより一層かき立てるものとなった。コンサートと地元企業が行う食育に関するミニ講座など多様なステージとなって、参加者に豊かな学びを提供した。

●11月5日(日) スーパーキッズ2023

【主催】堺スーパーキッズプロジェクト(大阪府)

【会場】フェニーチェ堺

【主催者報告】

ジャンルの違うパフォーマンスを同じステージで展開する試みとして、2019年8月第一回公演を開催した。今年度はその第3回公演として11月5日、フェニーチェ堺においてスーパーキッズ2023として開催した。3時間にわたるステージパフォーマンスで一般入場者延べ280名を迎えての公演となった。予定していた演目の終了後には、体験時間等を作り、それぞれのジャンルのパフォーマンスへの興味と理解を深めてもらった。会場より大きな声援をいただき、参加者の自信を深め、ますます練習で磨きをかけていく子供たちの決意へとつなげることができた。

●11月5日(日) たちよってつくるコンサート2023

【主催】まちなか立寄楽団(神奈川県)

【会場】横浜市寿町健康福祉交流センター

【主催者報告】

11月5日(日)、横浜市寿町健康福祉交流センターで、まちなか立寄楽団が、音楽を通じた居場所づくりのために「たちよってつくるコンサート2023」を企画・開催した。コンサートに向けて、自然の音に耳をすますことをテーマに事前に4回のワークショップを行った。また、ワークショップのうち1回はちんどんの講師を招き、一体感のある演奏について多角的に学んだ。当日は、開演前にまちの広場を練り歩き、チラシを配布した。開演後は観客も巻き込みながら、オリジナル曲や民謡を一緒に演奏した。音楽を通じて、様々な立場の方が交流する場が形成されていたと考えている。

●11月12日(日) 第21回川副町ふれあいコンサート

【主催】Trio Lien(佐賀県)

【会場】佐賀市立南川副公民館

【主催者報告】

当コンサートは、町民の皆さんに生の音楽に触れる機会を作りたいという地元の医師、

薬剤師二人の発案で始まり21年目を迎える。その間、資金面、ボランティアスタッフの手配と両先生方のご支援で続けてきたが、昨年一昨年とお二人の先生の急逝により継続が危ぶまれた。しかし町民の方の続けて欲しいとの声もあり、昨年より公益財団法人音楽文化創造助成事業の助成金により昨年、今年と無事に開催することができた。コンサートは毎年、町民団体などをゲストに迎え、また来場者の方への楽器体験やステージ上で歌唱して頂くステージ体験などを通し音楽に触れていただいた。川副町民の方のために始まったコンサートであるが、10年ほど前より町民以外の地域や、幼児から高齢者まで幅広い年代の方にお越しいただいている。

●12月7日(木) 子どもオーケストラによるジョイントコンサート
～すべての子どもたちに音楽を奏でる喜びを～

【主催】しまなみジュニアオーケストラ(広島県)

【会場】広島県民文化センターふくやま

【主催者報告】

年齢も住んでいる地域も異なる子どもたちが、音楽を通じてつながり、わかりあえる素晴らしさを体験し、音楽演奏を通じた学びあいと育ちあいの成果を披露することを趣旨に、「子どもオーケストラによるジョイントコンサート～全ての子どもたちに音楽を奏でる喜びを～」を開催した。主催団体のしまなみジュニアオーケストラは「すべての子どもたちに音楽を奏でる喜びを」を理念とし、音楽活動を通じた子どもたちの育ちあいを大切にしている団体である。今回、趣旨に賛同してくれた広島ジュニアオーケストラ、吹田ジュニアオーケストラ、地域のアマチュア演奏家、ならびに開催地域の学校である福山暁の星女子中学・高等学校の室内管弦楽クラブのメンバーが参加し、総勢83名によるフル・オーケストラのジョイントコンサートを行った。終演後は楽器体験会を開催。体験者は約15名。また、来場した子供たちにささやかなクリスマスプレゼントを渡しつつ、会場内にユニセフの募金箱を設置し、困難な状況にある世界の子どもたちへの募金を訴えた。

●12月8日(金) 集まれ三世代合唱団！聴いて歌って参加しよう『にじいろ発表会』

【主催】かなりあ少年少女合唱団(神奈川県)

【会場】横浜市都筑区都筑公会堂

【主催者報告】

かなりあ少年少女合唱団は地元都筑区で10年以上に渡り歌を届けてきた。「集まれ個性。合わせよう声の力。」をモットーに異年齢の子どもたちが力を合わせ、地域に密着した活動をしている。歌が伝えるメッセージをさらに広げるため10月から三世代で歌うワークショップ参加者を公募し練習を開始。12月8日に発表会を行い、6歳から85歳の三世代の混声合唱を披露した。また、少人数のアンサンブルやデュオやソロなどのコーナーも設け、それぞれの挑戦を応援した。その経験を活かし12月27日には同じ会場で行われたコンサートにゲスト出演し、プロの演奏家ともコラボした。

3. 音楽学習に関する指導員の養成プログラムの開発及び実施

<地域音楽コーディネーター養成講座>

地域において音楽による文化振興をはじめ、様々な社会貢献活動を推進するために、音楽専門家、地域住民、音楽団体、行政等との連携を図り自らも推進役となれる人材の育成を目的に講座を実施しました。受講修了後「地域音楽コーディネーター」の資格を認定しました。対象者は地域において音楽による社会貢献

活動に携わっている、または今後音楽による社会貢献活動を始めたいと思っている一般の方々です。
今回も全国各地から手軽にご参加いただけるようにオンライン形式にて開催致しました。

●養成講座オンライン 7月

<実施日> 7月9日(日)

<対象者> 一般

<受講者数> 83名

<内容>

(1)生涯学習と音楽

(敬称略)

テーマ:「地域音楽コーディネーターと学校部活動の地域移行について」

講師:久保田慶一 東京経済大学客員教授、放送大学非常勤講師
公益財団法人音楽文化創造理事

(2)文化と地域創生

テーマ:「音楽の力で地域を元気にする」

講師:渡辺昌明 東大阪市文化創造館 館長、全国公立文化施設協会 コーディネーター

(3)地域文化マネジメント

テーマ:「社会貢献活動 ―地域や行政とのつながり―」

講師:藤根由紀子 NPO 法人みらいっこ理事長、知多半島春の国際音楽祭大府市
実行委員長、保育園管理責任者、地域音楽コーディネーター

(4)音楽企画書の書き方

テーマ:「ターゲットを明確にして、キャッチフレーズを考えれば、企画は自ずと出来上がる!」

講師:大谷邦郎 グッドニュース情報発信塾 塾長

●養成講座オンライン 1月

<実施日> 2024年1月28日(日)

<対 象> 一般

<受講者数> 63名

<内容>

(1)生涯学習と音楽

(敬称略)

テーマ:「これからの音楽の学び 地域音楽コーディネーターの展望」

講師:河原啓子 国立音楽大学、青山学院大学、立教大学兼任講師
アートジャーナリスト、アードキュメンタリー作家(日本文藝家協会正会員)

(2)文化と地域創生

テーマ:「文化を活かしたまちづくり」

講師: 広中省子 ジョイントフェスティバル協議会 会長

(3)地域文化マネジメント

テーマ:「地域で活動する人材の育成～公共ホールと地域アーティストの協働」

講師:生田創 長久手市文化の家 館長

(4)音楽企画書の書き方

テーマ:「ターゲットを明確にして、キャッチフレーズを考えれば、企画は自ずと出来上がる!」

講師:大谷 邦郎 グッドニュース情報発信塾 塾長

●養成講座オンライン 3月

<実施日> 2024年3月3日(日)

<対 象> 一般

<受講者数> 57名

<内容>

(1)生涯学習と音楽

(敬称略)

テーマ:「人とのつながりの中で音楽を学ぶことの意味とその支援について」

講師:志々田まなみ 文部科学省国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部総括研究官
公益財団法人音楽文化創造理事

(2)文化と地域創生

テーマ:「地域文化クラブ移行へのステップ 今やっておくべきこと!!」

講師:中村牧 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 磯子区民センター 杉田劇場館長、
公益財団法人音楽文化創造理事

(3)地域文化マネジメント

テーマ:「地域連携と音楽活動:誰もが自由で、創造性を発揮できる共生社会の実現を目指して」

講師:菊川穰 一般社団法人エル・システムジャパン代表理事
公益財団法人音楽文化創造理事

(4)音楽企画書の書き方

講師:松澤寿典 一般社団法人ソーシャリスト21st代表理事

4. 音楽に関する調査研究並びに情報の収集及び提供

音楽学習に関する指導員の養成プログラムの開発及び実施

文部科学省が進めている学校文化部の地域移行対策として文化庁が行った令和5年度委託実証事業「文化部活動改革(部活動の地域移行に向けた実証事業及び地域文化クラブ推進事業)」に参画致しました。当財団はこの動きを学校の部活動を単に地域へ移行するということではなく、地域の音楽文化の振興、生涯音楽学習の環境整備に資する社会改革と捉え積極的に関わっております。具体的な活動として以下の2事業を行いました。

①地域の受け皿構築に関する調査研究

以下の全国7団体と連携し、各団体が構築した実施主体(コンソーシアム)の実態調査を行い報告書をまとめ、年度末に調査報告書を文化庁に提出致しました。

【参加7団体と実証事業】

- ・株式会社宮地商会 (東京都小金井市)
→ 国立音大の協力のもと東京多摩ジュニア吹奏楽クラブを設立し活動
- ・株式会社 中川楽器 (岡山県倉敷市)
→ 私立倉敷高等学校の協力のもと複数の中学校による合同練習を実施
- ・株式会社富岡本店 (山形県山形市)
→ 成人主体の「1日ブラバンDay」の活動に中学生が参加
- ・株式会社ヤマハミュージックジャパン (沖縄県渡嘉敷村)
→ 指導者がおらず吹奏楽部が無い離島の中学校でオンラインによる音楽指導を実施
- ・(公財)横浜市芸術文化振興財団磯子区民文化センター杉田劇場 (神奈川県横浜市)
→ 地元中学校吹奏楽部、合唱部に指導員を派遣
- ・NPO法人ふじみ野市音楽家協会 (埼玉県ふじみ野市)

- 地元音楽指導者、参加希望の教諭等による複数の中学校合同のパート指導
- ・NPO法人掛川文化クラブ（静岡県掛川市）
- 当法人の主催する文化クラブを中学校部活動の受け皿組織とすべく体制作り、指導者育成を推進

②地域の部活動指導者の育成カリキュラムの開発と展開

学校の先生に代わる指導者としての資質や必要な知識、スキル習得のためのカリキュラムを開発し、講座、研修会等を通し人材の確保を目指す。楽器の演奏など専門的、技術的なことではなく、指導者として人の前に立つうえで最低限必要なことをまとめた、ミニマム・スタンダードな内容とした。今年度は、カリキュラムを開発し、トリアル講座で実証を行った。

【カリキュラムの概要】

- ・地域文化 / 制度『文化政策と学校部活動の地域移行』
 - 国の文化政策の方向性
 - 学校文化部活動の地域移行
 - 教師の働き方改革との関係
 - (担当講師) 志々田まなみ 理事
- ・組織運営『音楽団体マネジメントとネットワーキング』
 - マネジメント論(組織を維持する力)
 - 目標設定、事業計画、地域(学校部活を含む)との連携
 - プロジェクト運営「ネットワーキング(行政、学校、関係者とのコミュニケーション)」
 - (担当講師) 菊川穰 理事
- ・リスクマネジメント『指導者の倫理と管理』
 - ハラスメントの防止
 - 安全管理、健康管理
 - 引率の安全管理:事例、保険
 - (担当講師) 竹内貞一 理事
- ・発達と教育『音楽活動におけるコーチング理論』
 - コーチングとティーチング
 - 現代の教育の最新動向
 - (担当講師) 菅生千穂 群馬大学教育学部准教授

【その他の事業】

5. 音楽に関する出版物の編集及び発行

音楽文化創造のWEBサイトにて4回掲載いたしました。

(敬称略)

<Vol.24 特集「部活指導者の資質・能力」>

近年、学校教育現場でも「働き方改革」の必要性についての認識が高まる中、特に部活動のあり方について、これまでと異なる取り組みなどが出はじめてきている。運動部を中心に、外部コーチ、地域の指導者を受け入れることで、その対策とする例が先行している状況にあり、その波はすでに音楽系の部活動にも及んできているといえる。一方で、学校教育の枠の中で行われる部活動は、地域の音楽活動と

いう側面だけではなく、子どもたちの感性や人格形成などに多大な影響を与え得るものであるため、その指導にあたる人にも適切な資質・能力が求められるところでもある。この特集では、最近の音楽部活指導の指導者像について、現場の事例なども含めて紹介する。(本誌リード文より)

●「地域人材に望むこと ―ジュニアスポーツの指導者研究から―」

藤後 悦子 東京未来大学こども心理学部 教授

●吹奏楽部地域移行への可能性と音楽科教員に求められる役割

山本 健太 三重県鈴鹿市立白子中学校 音楽科教諭

●中学校吹奏楽部の指導者に求められる資質・能力 ―部活動の地域移行をめぐって―

岡邑 衛 千里金蘭大学 准教授

●持続可能な部活動・地域クラブ活動の指導について考える

―文化庁の地域移行モデルから見えてくること―

竹平 陽 ういんどあんさんぶる樂楽 団長 地域音楽コーディネーター

●吹奏楽部の地域移行 ～意義と課題、地域のあり方と指導者に求められる資質

三澤 慶 東京室内管弦楽団トランペット奏者、エデュケーション・プログラム・アドバイザー
作曲家 / 桜美林大学非常勤講師 地域音楽コーディネーター

●部活動の外部指導員として求められること

牧野 早央里 吹奏楽外部コーチ 地域音楽コーディネーター

<Vol.25 特集「邦楽と若者の今」>

「邦楽離れ」(本特集では「純邦楽」を意味する)が叫ばれて久しいが、生涯音楽学習の文脈で、邦楽と若者の関わり方が議論される機会はそう多くない。本特集では、プロ/アマを問わず、若手養成に焦点を当て、新しい動向についてみていきたい。(本誌リード文より)

●日本芸術文化振興会の養成事業

森田 信一 富山大学名誉教授

●「邦楽普及拡大推進事業と大学サークル」

歌川 光一 聖路加国際大学大学院看護学研究科准教授

<Vol.26 特集「音楽ホールの取り組み」>

「音楽文化の創造(cmc)」誌の刊行は1996年(平成8年)、今から27年前。公共施設、音楽ホールやコミュニティ施設が盛んに建設された。生涯教育の場として国民に広く提供され、音楽文化の発展を担い、私たち音楽関係者にとって大変うれしいことでした。当時、弊誌では、初期より全国の音楽施設を紹介するべく特集をくみ、その活動の理念や活動状況を取り上げてまいりました。昨今のコロナ禍により、音楽活動は著しい制限を強いられ、現在でもなおその影響は少なくありません。以前紹介させていただいた音楽施設も相当の影響があったことは想像に難くないことでしょう。今回の特集では、音楽ホールやコミュニティ施設、その関係者の皆様がこのコロナ禍を如何に工夫して乗り切ってこられたか、また今後の施設運営をどのように考えておられるかなどの執筆をお願いした。(本誌リード文より)

●長久手市文化の家の25年～直営劇場の取り組み

生田 創 長久手市文化の家 館長

●文化をつなぎ手にして 地域とともに歩み続けた18年。そして、これからも…

中村 牧 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

磯子区民文化センター杉田劇場 館長

●ニューノーマル時代の区民ホール運営

奈雲 美德 港区立高輪区民センター 所長

<Vol.27 特集「各地の文化振興財団いろいろ」>

今、私たちは日常的に音楽に触れることができます。それは、“私たちの生活と音楽”を支える芸術関係財団の活躍によって成り立っています。本特集では、音楽文化活動の発展に寄与する芸術関係財団のいろいろについて、各財団の目玉となる取り組みについて紹介します。(本誌リード文より)

●ソニー音楽財団の事業について

馬場 桃子 公益財団法人ソニー音楽財団 企画事業部

●公立文化施設(ホール)の役割と現在

児玉 真 一般財団法人 地域創造 プロデューサー

●音楽文化の振興と地域共創

川村 有美 三重大学教育学部教授

以上